

美術手帖

BT | 2015.08
vol.67 NO.1024

ヴェネチア・
ビエンナーレ
Artist Interview
堀浩哉

特集
ファッショニ

明日を生きる
装いをこの手に!!

の現在地

謹賀新年 × 玉城ティオ
NORIKONAKAZATO × 堀未央奈(乃木坂46)
山縣良和(writtenafterwards) 黒河内真衣子(mame)

架空の考古学、あるいは、宇宙を針穴に通すということ

鈴木ヒラク「かなたの記号」展

北出智恵子 評

ドローイングは絵であり言葉。

詩であり音楽。身体をともなうダンス、パフォーマンス。それは、運動態として、光として、空間に、時に、新たな回路を開拓させる。鈴木ヒラクの個展「かなたの記号」では、このようなドローイングという領域の拡張が表明、実践されていた。

鈴木は制作姿勢について、「今まで針穴から宇宙を見ていたけれど、今度は宇宙を針穴に通そうとしている」と語る。鈴木が思考するドローイングの在り方を紐解く興味深い言葉だ。視覚表現を始めて以降、枯れ葉、マンホール、壁といった身近な物質を手がかりとした、身体が密接に関わるドローイング行為が主流であった。

近年、そして本展の作品群では、反射、発光など、鉱物の性質がも

たらす現象がドローイングの素材として積極的に取り入れられる。

会場のひとつである、回廊の一端部のようなカーブした空間の長い壁面の一方には、高さ6メートル、全長約55メートルの壁画『歩く言語』が展開される。シルバーのマークとスプレーで短期間に描きあげた大作だ。水平線を繰り返し描くことが自身の場への関わりの基調、パルスとなり、そこに上下左右に様々な線、点、かたちが載せられ、それらは空間に浮遊し、拡散する。作品はあまりに広大で一望できず、鑑賞には歩くという運動を伴うが、このとき、発光する光を追いかけると同時に後ろから

光に追いかけられているような感覚にみまわれる。

回廊のもう一方の壁面には、

《casting》91点が一列に配された。

これらは鈴木が収集した世界各地の博物館カタログの、写真図版の皿、壺などの輪郭をなぞり、ステンシルの手法でくり抜いた面にシリバーアのスプレーを施したもの。

元來の形体、記録は抹消され、影と背景という痕跡に、シルバー面による未知の次元が輝きを放つ。

《casting》における「なぞり」「版

」をつくつて「象る」ことによる「転写」、ネガとポジの「反転」と「反復」は、鈴木が以前行っていた

フィールド・レコードティングにおける「録音」と「再生」にもつながる。これらのプロセスを経て、イメージは原型から自立し、移動しながら増殖し、積層していく。

本展における創造の瞬間は「記録」され得ない。人の往来、時間、周囲環境により変容するからだ。

だが、見る者の心身に確實に「記憶」される。そして、移動は続き、

する行為としてドローイングを試みる。宇宙を針穴に通すように。

隣の部屋には、黒の紙にシリ

バーのスプレーやマーカーで即興的に描かれた線を複写した写真作

品《GENZO》84点。別室には、

A4サイズのドローイング《GEN GA》1000点をスキヤンし、

モーフィングでつなげた映像と、

形状様々なりフレクターの発光が

象る大きな《鍵穴》が宙に浮かぶ。

いずれも鈴木の初動が留められた

線に、反転、反復が重ねられるこ

とにより、非物質的な現象、無重

力的な軽さと多方向的な様相が浮

き彫りにされる。

本展における創造の瞬間は「記

録」され得ない。人の往来、時間、

周囲環境により変容するからだ。

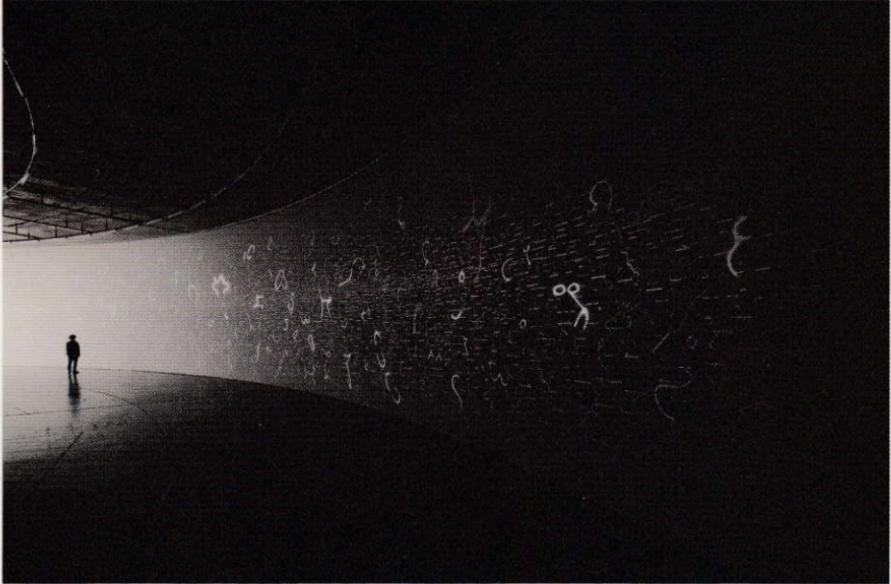
だが、見る者の心身に確實に「記

憶」される。そして、移動は続き、

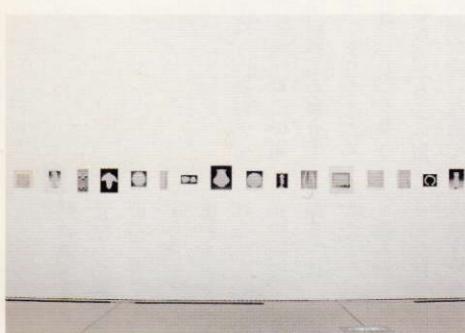
次の場で再び「反転」が起こる。

タイトルの「casting」は「铸造」とともに、「(釣りにおいて)仕掛けを遠くに投げる」ことも意味する。鈴木は、かなたの存在を照射

PROFILE
きたと・ちえこ 金沢21世紀美術館キュレーター。
1974年生まれ。主な企画展に「ソウルエリミニートル そして翻訳」(2013年など)。



歩く言語 2015 シルバースプレー、シルバーインク
55.35×6m



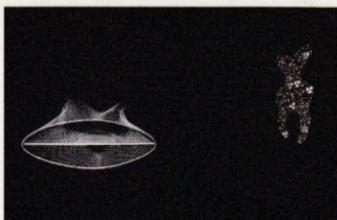
左—casting 2010-15

博物館のカタログ切り抜き、シルバースプレー サイズ可変

右—写真左は《GENGA #001 - #1000 (video)》(2009)、

同右は《鍵穴》(2015)

撮影=小山田邦哉



言語と空間vol.1

鈴木ヒラク「かなたの記号」

青森公立大学国際芸術センター青森[ACAC]

鈴木ヒラクは1978年宮城県生まれ。2008年東京藝術大学大学院美術研究科修了。描く行為を主題に、壁画、映像、パフォーマンスなどを展開。主な個展に11年「Glyphs of the Light」(ウインブルドン・スペース、ロンドン)、グループ展に13年「ソンエリュミエル、そして叡智」(金沢21世紀美術館)など。本展は連続する2つの個展シリーズ「言語と空間」の第1回。第2回は蓮沼執太。企画は服部浩之。会期中にはライブドローイングイベントも行われた。



台湾可愛
青山裕企

岡田一、天賞園等

台灣可愛 Taiwan Kawaii School Girl

飾らない "カワイイ(可愛い)" があふれ出す。

日本初登場! 話題の台湾制服美少女たち。

写真家・青山裕企による、台湾の制服美少女写真集。「女子高校生 制服総選挙」が開催されるなど、制服ブームに沸く台湾で、16人の原石の、純朴で天真爛漫な輝きを振りおろしました。日本の女の子とはどこか違う…飾らない"カワイイ(可愛い)"が満載の一冊です。

著者=青山裕企 ISBN=978-4568120820
定価=2,000円+税 23.2×18.2×1.8cm 136ページ



美術出版社

Bijutsu Shuppan-Sha Co., Ltd.

〒102-8026 東京都千代田区五番町4-5 五番町コスモビル2階

[営業部] TEL:03-3234-2153 FAX:03-3234-9451 E-mail:book@bijutsu.co.jp